



子どもの描く楽しさを考える

教育学部児童教育学科 准教授 山田 真世

キーワード 描画、ことば、身体、仲間集団、保育者

該当するSDGs



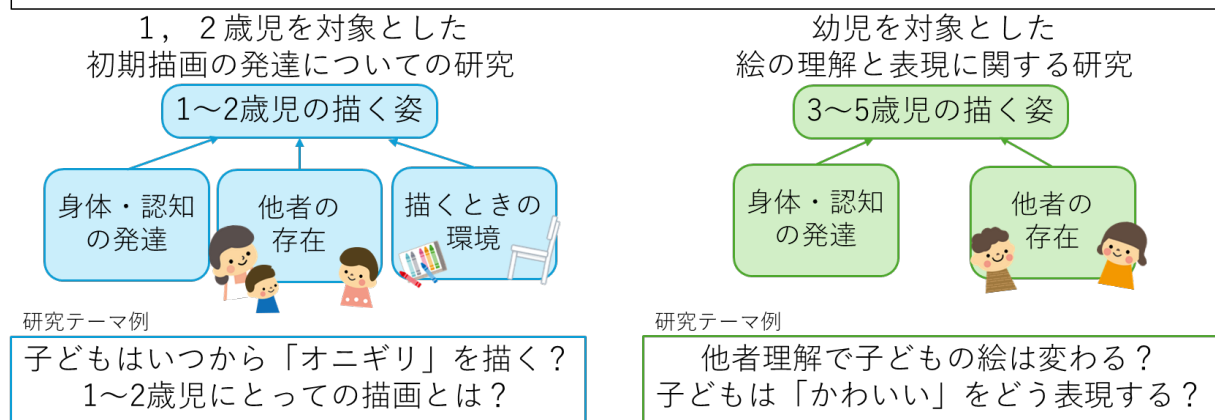
1 研究内容

描画は子どもの認識や経験、想いを聴きとることができる表現ツールの1つです。

これまで乳幼児期を中心に描画の発達とその発達に関わる要因について、以下に示したような調査を保育現場やご家庭のご協力をいただき進めてきました。研究から、描画の発達のな変化が明らかになってきたと同時に、子どもたちはさまざまな方法で描画を楽しんでいることや、子どもたちの描画を支えている保育の専門性が見えてきました。

今後は、調査結果でわかってきたことを踏まえて、描画をはじめとする造形活動に関して調査研究や実践と関わりの深い研究も行っていきたいと考えています。

これまでの研究のまとめ



2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

・上記のような内容について興味がある方と共同研究できる可能性があります。

これまでの連携実績

- ・講演会講師、研修会講師、公開講座講師の実績
- ・全国保育問題研究会美術分科会における世話人
- ・大阪保育運動センター主催の年齢別保育講座「3歳児クラスの保育—発達と保育の課題—」講師
- ・福山市主催のネウボラ相談員養成研修「乳児期の生活と遊び」講師
- ・福山市保健福祉局児童部保育課・ふくやま子育て応援センター主催の障がい児保育・特別支援教育講演会「気になる子どもとその支援 —幼児期の描画をとおして—」講師
- ・香川県三豊市就学前教育・保育推進研究事業の乳幼児理解現場研修会にて指導助言者(アドバイザー)